



放生津八幡宮

御神輿車輪修復竣工記念

令和御大興奉祝

## 神輿車輪修復の御礼

令和2年9月吉日

謹啓

仲秋の候、皆様に於かれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
放生津八幡宮の歴史・日本文化にご理解いただき誠にありがとうございます。

過日は、当宮の10月1日秋季例大祭にて渡幸する大・小神輿の車輪修復のため、ご志納賜り、深く御礼申し上げます。

さて、当宮の神輿渡幸祭は明応8年(1499)に放生津の町を金箔張りの神輿が渡幸していたということまで記録により遡ることができます。現存する神輿は3基あり、このうち、最も古いものは寛延3年(1750)に竣工し、昭和11年まで旧新湊地区の町を渡幸しており、射水市新湊博物館に保管されております。現在、渡幸している大神輿は昭和12年、東京工業大学の畑正吉博士の設計により造られたものです。この後、渡幸する範囲が広域になり、昭和42年から大・小2基の神輿で家々をまわっております。

平成27年には「第35回全国豊かな海づくり大会」の際に、上皇后様をご来臨され、当宮神輿と曳山13本でお出迎えいたしました。

長年の渡幸に伴い、車輪や車軸に負担がかかっており、専門家から、傷みが激しい状態であると指摘がありました。

皆様からの御厚意を賜り、職人により車輪・車軸の修復、漆の塗装を経て、令和2年9月に無事竣工されました。

感染症に伴い、本年は少人数でも渡幸ができるよう御神輿に代わり、御舟代に御神体及び曳山13町の山神様を御乗せし、新湊・放生津地区を隊列とともに渡幸いたします。

このような機会であるからこそ、皆様にじっくりと神輿を御覧いただきたく、10月1日祭礼当日の出御の儀(8時30分)を経て、当宮拝殿から御立し、還御の儀(およそ16時30分頃)に至るまで、大・小2基の神輿を大鳥居前に展示させていただきます(雨天の場合は神輿庫にて展示予定)。

末尾になりましたが、ご支援いただいた皆様方へ、益々の弥栄を祈念申し上げ、神輿車輪修復支援への御礼挨拶とさせていただきます。

謹白

放生津八幡宮

宮司 大伴 泰史

筆頭総代 安田 泰博

責任役員・総代一同



